

「ジープレスせたがや」
Gpress のGは愛称「げんき」のGです
2011年6月20日発行
発行／世田谷区発達障害
相談・療育センター
業務受託／社会福祉法人 嬉泉



Gpress
せたがや
<http://www.ryo-iku.jp>

就任にあたって

山崎 晃資



今年の4月に世田谷区発達障害相談・療育センター診療所長に就任しました。このセンターは区在住の発達障害の方たちにとって重要な療育相談機関であることから、その責任の重さを感じています。

私は医師として昭和四十年から四十五年間、それこそ発達障害についてどう向き合っていくか手探りだった時から関わってきました。その経験を活かしていくとともに、今回伺うことになって改めて思うことは、療育も相談も子どもたちのためにしていることを忘れてはならないということです。

このセンターには、臨床心理士、臨床発達心理士をはじめとする多くの専門家がそろっていますが、発達障害の診断に求められる慎重さを認識しつつ、相談や療育にみえるご本人やご家族に対して謙虚な気持ちを忘れず、より一層の研鑽を積んでいってほしいと思っています。そのためのお手伝いもしていきたいと思っています。

私が今まで接してきた多くの発達障害のお子さんや親御さんから学んだこと、得たことはとても大きく、この貴重な経験をさせてくださったことに少しでも恩返ししていければと思っています。

3年目を迎えて

世田谷区発達障害相談・療育センター センター長職務代行 齋藤 厚子



「げんき」(世田谷区発達障害相談・療育センター)は開設3年目を迎えました。これまでの2年間の活動のなかで、発達障害に関する相談が年齢、内容ともさらに多様化してきていることを強く感じています。今後もご家庭や地域の関係機関とともに、それぞれの方の状況に応じて必要なときに必要な支援をしていきたいと思っています。今年度は新たに、出前相談として「げんき」から地域に出向き、直接発達障害に関わるニーズを伺う機会も設けます。

これからも職員それぞれの専門性を活かしつつ、世田谷区の拠点施設として地域に根ざした活動をしていきたいと考えています。お子さんの発達や育ちが気になる時、どうぞ「げんき」にご相談ください。

発達についての心配
幼稚園、保育所、学校などとの関係の持ち方
友だちとの関係
学習の遅れ
不登校、引きこもりについて
家庭生活について
就労について
などの多くのご相談がありました。

新規事業としては、
 ＊理解啓発を目的に、区民向けに
 こちらから出向く「**出前ミニ講座**」
 ＊家庭支援の一環として、親御さんの
 「**交流コーナーの活用**」
 があります。

人材育成研修や関係機関への巡回支援、講演会、家族支援講座などの事業もさらに充実させて、地域との繋がりも深めていきます。

Gpressやホームページも是非ご利用ください。

平成22年度
相談件数 1140件
(電話相談・来所相談)
療育人数 417人
でした。

世田谷区発達障害相談・療育センター

■平成23年度の予定

■啓発事業

8月20日(土)……………講演会

9月10日(土)……………施設開放日(施設見学、内容説明等)

■家族支援事業

9月～12月……………家族向け連続講習会(全5回)(予定)

11月下旬～24年1月下旬…子育て体験懇話会(予定)

『発達障害理解のための講演会』
『発達障害のある子どもの育ちと子育てについて(仮題)』
【日時】8月20日(土)13:30~15:30
【場所】成城ホール

当センターでは発達障害理解のため、「発達障害ってなんだろう?」「地域の支援ってなんだろう?」(平成21年度)、「発達障害児の保護者への理解と支援」「発達障害のある当事者から聞く」(今号P2・3で特集)(平成22年度)をテーマに順次開催してきました。平成23年度第1回として上記の講演会を予定しております。講演内容にご興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

【申込】8月15日までに、電話【03-5727-2237】(申込受付専用)にお申し込みください。

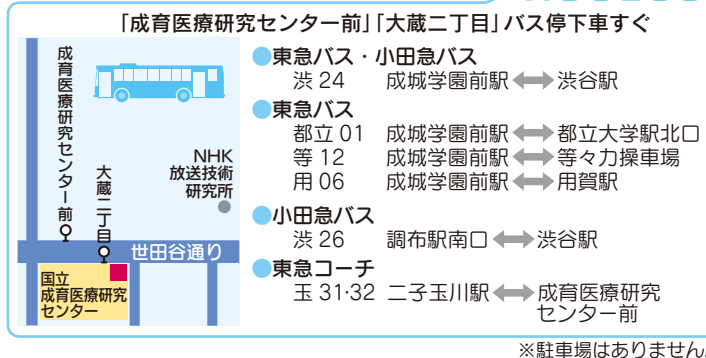
【問い合わせ】世田谷区発達障害相談・療育センター

開所日時 月～土曜日（祝日及び年末年始を除く）
午前9時～午後6時

利用方法 利用は予約制です。利用を希望される方は、直接『世田谷区発達障害相談・療育センター“げんき”』へお電話にてお申し込みください。

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3階
TEL 03-5727-2235（代表）
03-5727-2236（相談専用）
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

ACCESS



※駐車場はありません。

業務受託 **社会福祉法人 嬉泉**
〒156-0055 世田谷区船橋 1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>

世田谷区在住の発達障害児者、またはその疑いのある方を対象としています

まずはお電話ください ☎ 03-5727-2236 (相談専用番号)

当センターでは『発達障害理解のための講演会』を開催しています。今回は世田谷区でも長年発達障害者支援を行ってきた石井哲夫（社会福祉法人嬉泉常務理事・東京都発達障害者支援センター長）が、成人の発達障害のある当事者2名との鼎談を行いました。発達障害があるとはどういうことか、発達障害のある人への必要な支援とは何かについてお話し頂いた内容の一部をご紹介します。

2011年3月9日

北沢タウンホールにて「発達障害理解のための講演会」を開催しました

発達障害のある当事者から聞く

自閉症の人の生きにくさと社会における支援についてわかってほしいこと

主催：世田谷区発達障害相談・療育センター 後援：世田谷区、社会福祉法人嬉泉



【自分の特性に気がついたのは・・・】

コミュニケーションのこととか友達とか勉強とか、他の兄弟に比べて自分はできなかったのになんか違うなと感じていました。大学の相談室で自閉症かADHDじゃないかと言われ調べているうちにオウム返しとかコミュニケーションの難しさとか当てはまると思っていました。

【いじめ・・・】

自分のできないことで1対1で責められることが多かったです。初めは心配かけたくないと思って言わなかったんですけども、後から先生にどんどん言ってもいいよと言われてから、声をかけるようになりました。

司会より：人に言われて悩んでいる状態は、外側からわからない。非常におとなしくて、弱々しくて、返事をしなくてももっと元気になるれとか、積極的になれと（周囲の人は）言うけれども、「自分としてはこれで精一杯やっているんだ」ということをわかってもらいたいということですね。

Aさん
20代男性。大学卒業後、デイケアを経て地域の就労支援機関で就労支援を受けてきた。現在は高機能自閉症があることをオープンにした障害者雇用で清掃等の仕事に従事。

【職場では・・・】

自分のコミュニケーションの難しさをわかってくれ、当然雑談とか苦手なんですけどほとんど言われることがないです。オープンにしてよかったと思います。

【わかってほしいことは・・・】

自分をストレスのはけ口として言った側はすっかりして忘れても、言われた私はストレスがたまって、実は暴れてもおかしくなかったし、情緒不安定になったりもしました。私の弱いところだけを指摘するのは社会的にもなんか不公平だなあと感じました。配慮してもらいたい点は、注意するときはやさしく声をかけてほしいとか、注意するだけでなく、自分の生きにくさを、言いたいことがなかなか言えないっていう、つらかったことを共感してもらえると非常にありがたいと思っています。

【家族や周囲との関係は・・・】

これまでは波風をたてないよう姉のご機嫌をうかがったり、父や母に対しても怒られたりしないように注意して生活していたと思います。いじめっ子の近くには近寄らないようにしていました。

【人との付き合いは・・・】

不特定多数の人たちとずっと人間関係を保っていくということだけが苦手なのであって、それほど人数が多くなければ難しいことではないと思っています。

【アンバランスさ・・・】

できることとできないことの差が激しい感じがします。型にはまったことはできますが、臨機応変は苦手で、例えば参考書を見たり細かく聞いてからでないで安心して作業が進められないことが多いです。でもとにかくできるようになるまで時間をいただきたい。

【将来は・・・】

きちんと人と変わらない仕事をしながらの生活を保つことが大切であって、これからを考えるころの余裕がまだありません。将来もう少し広い部屋で生活できるよう目標を掲げているところです。

【仕事について・・・】

普通の人にはない注意力、集中力というプラスの面を利用して、ミスや間違いをちゃんと見逃さずにチェックする仕事を頼みますよと、私のことを信用してくださるようになるといいなと思っています。

司会より：（自分が得意な）型にはまった仕事だけではなく、（苦手なことでも）時間をかけてでも自分で考えてやれるようにしていきたいということですね。

鼎談を終えて・・・

Aさんから：今日は皆さんに対してどういうふうに言えばいいのかと、結構悩んでいたりしましたが、自信はないですけど、多少なりとも言えたかなあとと思います。

Bさんから：自分は何を考えながら生活していたのか、どういうふうに仕事に取り組もうか、生活していこうか、声に出して言っているうちに、少しずつ方向性がみえてきた感じがします。

司会（石井哲夫）から：障害や能力の有無、仕事ができるとかできないとかで人を見ることが、当事者のAさんを人間不信に、Bさんを人との接触を避けるという状況にしていたのだと思います。それでもこの二人は今それぞれの職場等で苦勞しながらも働き、経験を自分の中にちゃんと取り入れ、行き詰ることがあってもそれを乗り越えられるよう自分を育ててくれたことに私は大変敬服しています。

話す努力をすることいろいろなことを考えるようになったとお二人もおっしゃっています。私も言葉の力を教えられました。当事者が言い足りないことを補う当事者性を、この世田谷区発達障害相談・療育センターでもすすめていってほしいと思います。お二方には大変長い時間お話し頂きました。一生懸命お話し頂いたことを心から感謝します。

会場の声

* お話をするお二人はとてもたくましいと感じた。自閉症という障害を受け入れ、それとともに生きていくことは簡単ではない。勇気づけられた。私の家族がどうなっていくか不安だが、出来ることは何か、どのようにサポートしたら良いのか見極めていきたい。

* 本人たちが何を感じ、この社会の何がおかしいのか。生きにくいと感じている人の感覚を大事にしたい。コトバの力を改めて感じた。

* 周囲に気を遣い、よく考えながら話していることに驚きました。社会が複雑になって、生きづらくなっているのですね。もっと大らかにキャパシティの広がった世の中になっていかなければなりません。紳士的な様子が、せつなさを感じました。

* 障害を今まであまり理解しようとしていなかったことを実感させられました。当事者の方々が大変な努力をしているのだから受け入れる側も気持ちよくみ取る努力をしなければいけないと切実に思いました。

* 漠然としていた発達障害の当事者の生きづらさが少しわかった。石井氏の社会の側の問題なのだと言われた言葉がその通りだと思った。

* 仕事場と同じ様な考えの人に対しての理解が持てず対していました。今回の話を聞くことで、もう少しわかってあげられたらと感じました。